

2-4 給食センター

(1) 施設の概要、設置状況

給食センターは、伊賀市給食センター設置条例に基づき、下記の3センターが設置されています。いがっこ給食センター夢は「島ヶ原を除く全中学校」、阿山給食センターは「河合・鞆田・玉滝・府中小学校及び阿山支所管内の4保育所」、大山田給食センターは「大山田・友生（1、2年生）小学校及び大山田保育園^{※42}」に給食の調理、運搬などを担っています。

施設名称	地区	所管課	施設延床面積	駐車場	運営形態	設置根拠	備考
いがっこ給食センター夢	上野	給食センター	1869.89㎡	有	一部委託	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条／伊賀市給食センター	中学校を対象
阿山給食センター	阿山	給食センター	592.00㎡	有	直営	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条／伊賀市給食センター	小学校及び保育所を対象
大山田給食センター	大山田	給食センター	556.50㎡	有	直営	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条／伊賀市給食センター	小学校及び保育園を対象

表2-2-10 給食センターの一覧



いがっこ給食センター夢



阿山給食センター



大山田給食センター

※42 大山田東保育園は、平成25（2013）年4月1日より大山田西保育園に統合され「大山田保育園」となったため、閉園した大山田東保育園は白書の対象外としています。また、本白書における「大山田保育園」は、大山田西保育園の情報となっています。

(2) 施設の状況

給食センター3棟の老朽化率の平均は31.8%と全体的に新しい施設となっています。最も古い阿山給食センターについても、耐震診断の結果、耐震性を有しており、全体的な品質が高くなっています。

施設名称	建物名称	延床面積	建築年度	老朽化率	残存年数	主体構造	耐震性	大規模改修	建物性能
いがっこ給食センター夢	給食センター	1869.89㎡	平成18年度	10.8%	33年	鉄骨造	有	無	4.0点
阿山給食センター	給食センター	592.00㎡	昭和58年度	54.0%	22年	鉄筋コンクリート	有	無	2.9点
大山田給食センター	給食センター	556.50㎡	平成3年度	51.3%	18年	鉄骨造	有	無	2.8点

表 2-2-1-1 建物性能一覧表

給食センターの建物性能評価点の平均は、全施設の平均2.7点を上回る3.2点となっています。

なお、大山田給食センターについては、阿山給食センターよりも新しい施設ですが、主体構造が鉄骨造のため、建物性能評価点が低くなっています。

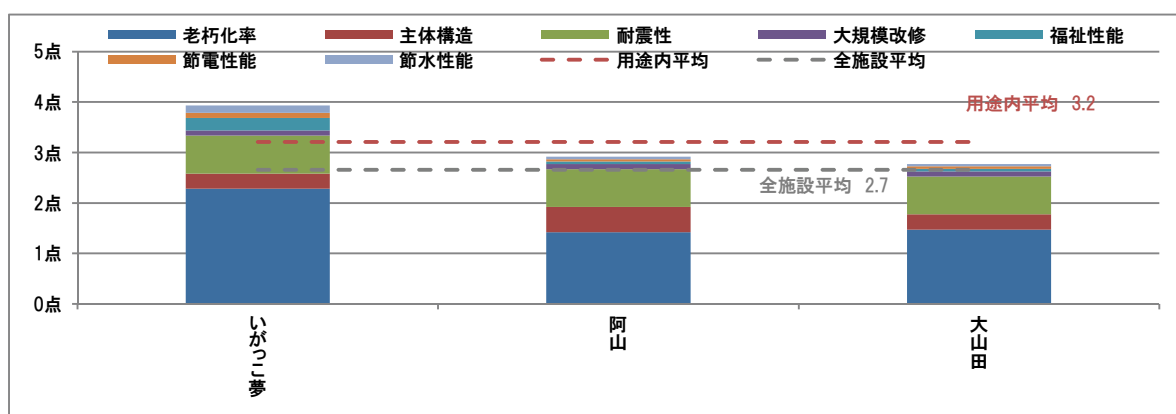


図 2-2-2-2 建物性能評価点の比較 (5点満点)

(3) 財務の状況

図2-2-23は、給食センターの保有コストの過去3年間の推移と面積当たり保有コストを比較したグラフです。給食センター全体の保有コスト（43,703千円/年）のうち、委託料が占める割合が24%（10,670千円/年）と最も高く、次いで修繕料の割合が21%（9,275千円/年）となっています。

なお、いがっこ給食センター夢については、平成23（2011）年度に12,059千円/の修繕料が発生していますが、事業運営の外部委託を行っているため、燃料費や光熱水費支出が発生していないため、他の施設と比較して保有コストが低くなっています。

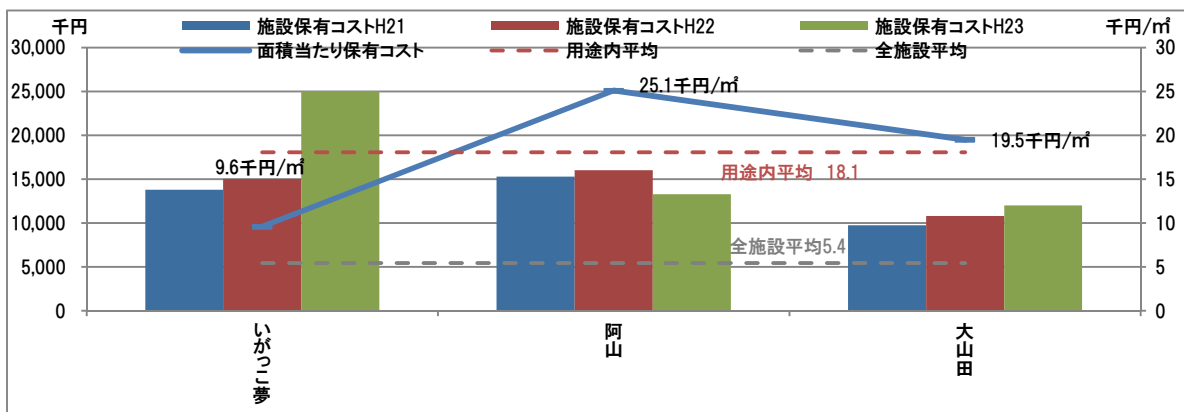


図2-2-23 施設保有コストの推移と面積当たり保有コストの比較

1食当たりの総コストについては、阿山給食センターが最も高く509円/食となっており、3施設の平均は388円/食となっています。

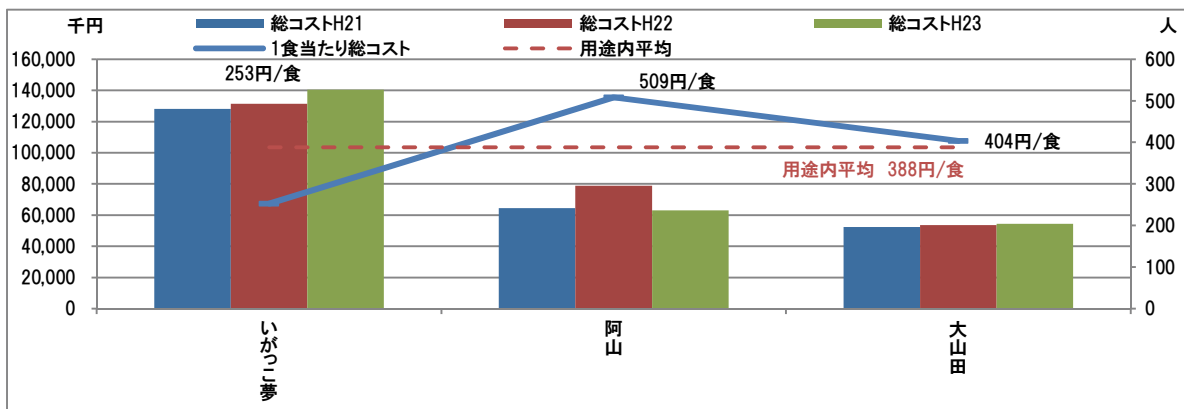


図2-2-24 総コストの推移と1食当たり総コストの比較

(4) 供給の状況

給食センターの過去3年の提供食数は、いがっこ給食センター夢が55.8万食、阿山給食センターが13.5万食、大山田給食センターが13.2万食となっています。また、過去3年間の提供実績数は、いがっこ給食センター夢が横ばい、阿山給食センターは平成22（2010）年9月から府中小学校に提供しているため25.5%増、大山田給食センターが3.5%減となっています。

施設名称	提供食数_H21	提供食数_H22	提供食数_H23	増減率	提供可能食数(年間)	稼働率
いがっこ給食センター夢	523710 食	530490 食	528530 食	0.9%	585000 食	90.2%
阿山給食センター	120900 食	133087 食	151710 食	25.5%	195000 食	69.3%
大山田給食センター	—	134600 食	129842 食	-3.5%	230000 食	57.5%

表2-2-12 給食センターの利用状況

給食センターについては、「年間の提供可能食数に対する過去3年間の平均提供実績（食）^{※43}」を指標として比較を行いました。稼働率は、いがっこ給食センター夢が90.2%、阿山給食センターが69.3%、大山田給食センターが57.5%となっています。

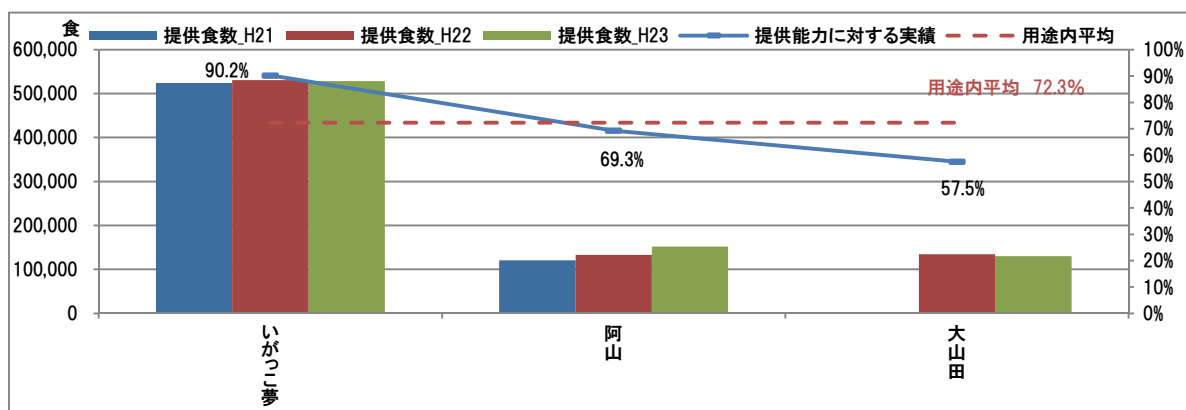


図2-2-25 提供食数の推移と稼働率の比較

※43 例えば、大山田給食センターの場合、年間の平均提供食数132221食 ÷ 提供可能食数230000食（1000食×230日）≒57.5% となります。

(5) 施設配置状況及び需給の動向

給食センターのサービス供給エリア及び需要者^{※44}は、いがっこ給食センター夢が「島ヶ原を除く全中学校（10～14歳）」、阿山給食センターが「河合・鞆田・玉滝・府中小学校及び阿山支所管内の4保育所（0～14歳）」、大山田給食センターが「大山田・友生小学校及び大山田保育園（0～14歳）」と設定しました。需要者一人当たりの供給状況を比較すると、いがっこ給食センター夢が1.28と需給バランスが平均の1.00を超えています。

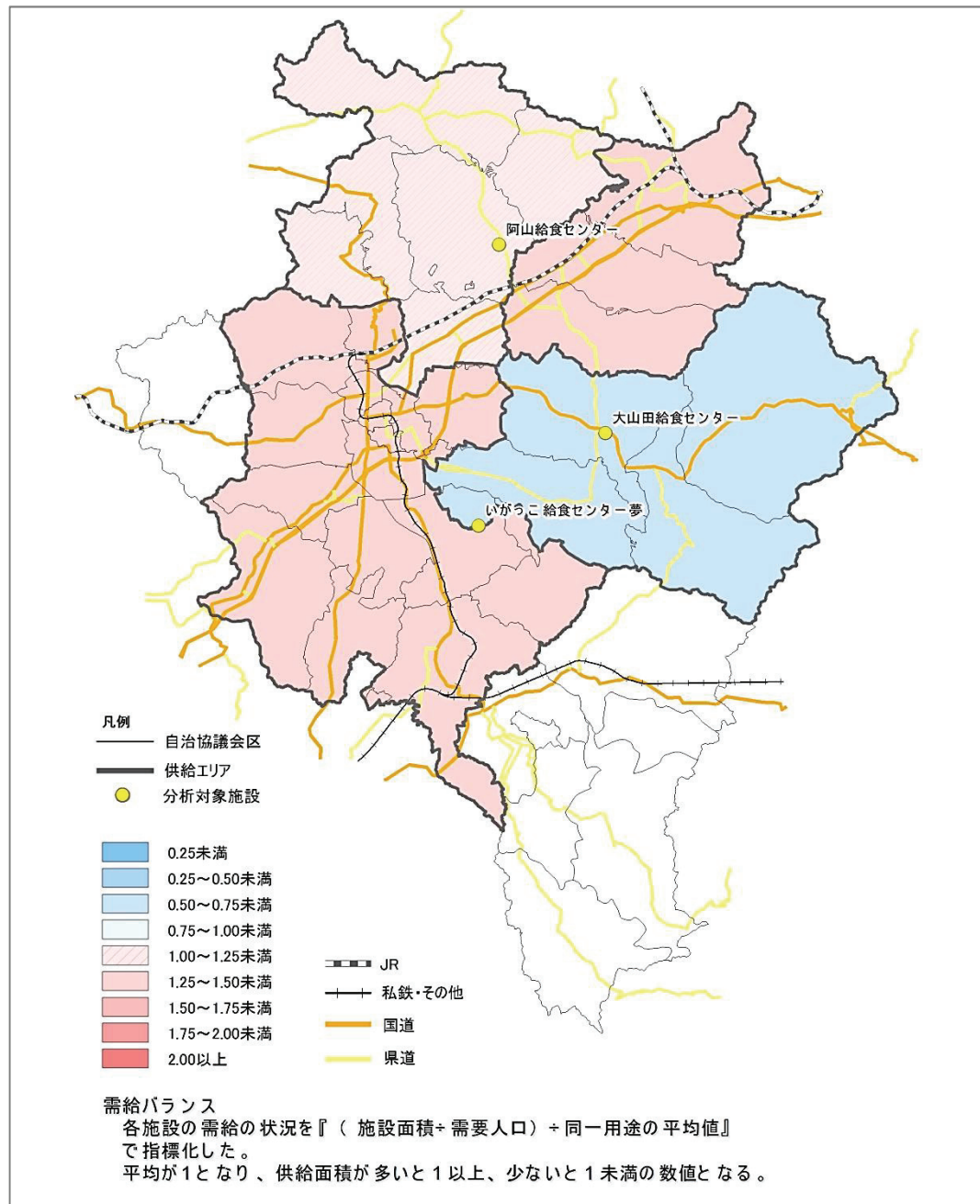


図2-2-26 需要人口（平成22年10月1日時点）一人当たりの施設供給量の比較

※44いがっこ給食センター夢が中学校（10歳～14歳）、阿山給食センターと大山田給食センターは小学校及び保育所（園）（0歳～14歳）を対象としています。

また、需要人口の将来推計からは、対象エリア内の0歳から14歳人口は、平成22（2010）年度の7,574人から平成47（2035）年度には4,109人と、45.7%の減少が見込まれます。

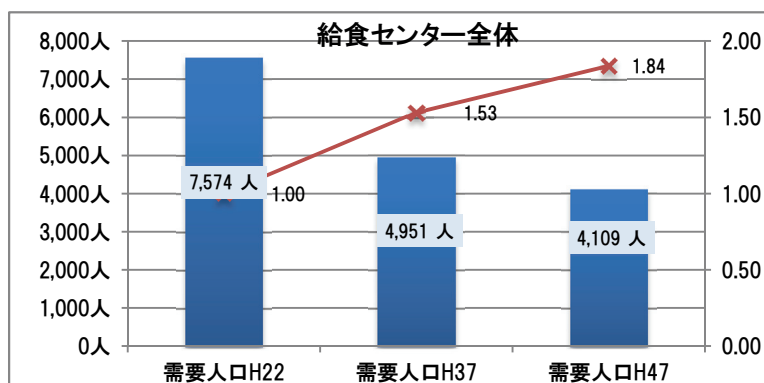


図2-2-27 給食センターの需要人口と需給バランスの将来推計

また、個別エリアの将来推計からは、いっこ給食センター夢の需給バランスが1.28から2.21へと増加することが見込まれます。

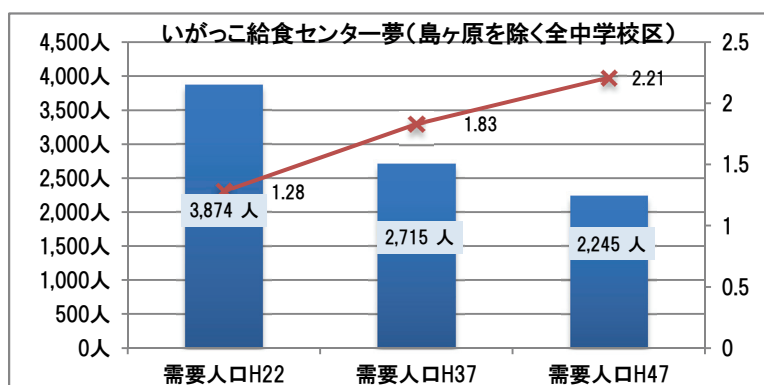


図2-2-28 需要人口と需給バランスの将来推計（いっこ給食センター夢）

上記までの需給動向の推移から、将来的には、需要人口に対して供給量が余裕傾向となっていくことが想定されます。

(6) 現状と課題

<施設>

全体の老朽化率は31.8%と良好であり、全ての建物が耐震性を有しています。このため、短期的には大きな課題はないものの、老朽化率が50%以上の建物もあることから、中長期的には改修などの検討が必要となります。

<財務>

総コストは255,441千円、1食当たりの総コストは平均で333円となっています。これに対し、給食費は小中学生で1食当たり約212円から255円となっています。

給食費については、施設費や人件費などを除く食材費相当分を対象としていますので、単純な比較はできませんが、一つの目安となる金額となります。

<供給・需給>

稼働率は全施設で50%を上回っているものの、施設ごとの稼働率には差が生じており、年間では提供能力に214,970食分の余裕があります。将来的には、需要人口の減少も見込まれていることから、給食の主な提供先である小中学校の方針に応じたセンターのあり方を検討することが必要です。

